○第163回肥料・飼料等専門調査会

日時：令和3年6月23日（水）10：00～10：47

議事概要：

（1）動物用医薬品（カルバドックス）の食品健康影響評価について

審議の結果、「カルバドックスは、これまで国内外において ADI の設定が行われておらず、遺伝毒性発がん物質であることが否定できず、毒性学的な閾値の設定はできないことから、評価の考え方の3の（2）に該当する。本成分は、規格基準において「食品に含有されるものであつてはならない。」として規定されており、不検出として管理されていることから、その食品健康影響は無視できる程度と考えられる。」とすることが了承され、食品安全委員会に報告することとされた。

* 抗生物質で、ポジティブリスト制度導入に伴う残留基準（いわゆる暫定基準）で不検出とされています。日本国内で動物用医薬品及び飼料添加物としての承認等はありません。

（2）動物用医薬品（ニフルスチレン酸ナトリウム）の食品健康影響評価について

審議の結果、「ニフルスチレン酸ナトリウムは、これまで国内外において ADI の設定が行われておらず、遺伝毒性発がん物質であることが否定できず、毒性学的な閾値の設定はできないことから、評価の考え方の3の（2）に該当する。本成分は、規格基準において「食品に含有されるものであつてはならない。」とは規定されておらず、不検出として管理されていないことから、その食品健康影響は無視できる程度と考えることはできない。」とすることが了承され、食品安全委員会に報告することとされた。

* 抗生物質で、ポジティブリスト制度導入に伴う残留基準（いわゆる暫定基準）が設定されています。日本国内で動物用医薬品及び飼料添加物としての承認等はありません。

（3）動物用医薬品（ロキササルソン）の食品健康影響評価について

審議の結果、「ロキササルソンは、これまで国内外において ADI の設定が行われておらず、遺伝毒性発がん物質であることが否定できず、毒性学的な閾値の設定はできないことから、評価の考え方の3の（2）に該当する。本成分は、規格基準において「食品に含有されるものであつてはならない。」とは規定されておらず、不検出として管理されていないことから、その食品健康影響は無視できる程度と考えることはできない。」とすることが了承され、食品安全委員会に報告することとされた。

* 抗生物質で、ポジティブリスト制度導入に伴う残留基準（いわゆる暫定基準）が設定されています。日本国内で動物用医薬品及び飼料添加物としての承認等はあ

りません。

注：「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」
（令和2年5月18日動物用医薬品専門調査会及び令和2年6月15日肥料・飼料等専門調査会
決定。）（参考資料2）